

# 名誉会員 安藤 馨氏を偲ぶ

山本 卓眞

富士通(株)名誉会長

IFIP (International Federation for Information Processing : 情報処理国際連合) 元会長、本会元理事、名誉会員であり、元富士通常務・元富士通ファコム社長の安藤馨氏は、去る平成9年11月20日逝去されました。享年83歳でした。謹んで哀悼の意をささげます。

安藤さんは大正3年のお生まれですが、アメリカのインディアナ大学経営学部ご卒業の経験をみてわかるように、非常に国際色豊かな方でした。大学卒業後、昭和12年日本ワットソン統計会計機械(株)（後の日本IBM）に入社され、PCS (Punched Card System) のシステムセールスの仕事を担当されました。戦争直後は連合軍最高司令部顧問としてさまざまな社会統計、経済統計、社会分析シミュレーションの仕事に従事されました。

その後日本IBMに戻られて、日本の汎用コンピュータビジネスを立ちあげられ、常務取締役、アジアIBM(株)の特別補佐を務められました。昭和41年に富士通ファコム(株)に移られて以降も、我が国のみならず国際的にも幅広く情報処理産業の世界で御活躍されました。昭和49年には、我国産業情報化に貢献した功績で、藍綬褒章を受章されています。

昭和58年にはコンピュータ分野で最も権威ある国際学会のIFIPの会長に日本人として初めて就任されました。まさに我が国コンピュータ産業の草分けと言える方でした。その後も情報処理学会の国際委員会委員長として多方面の活躍をなされました。

安藤さんは昭和41年から富士通ファコムの社長を務められましたが、当時の世間がコンピュータのハードウェアに注目していた頃に、ソフトウェアの開発、計算処理サービスの重要性を見通されて全国にサービスのネットワークを拡げられました。また技術中心の富士通に営業優先の姿勢を示され、従来と

は違う企業文化を持ち込まれたことは、富士通にとって大きなインパクトとなりました。個人的には私の中学の先輩ということもあって親しくさせていただき、昭和35年私の米国IBM訪問時にいろいろ紹介の労を取っていただいたことを懐かしく思い出しています。

安藤さんは、当時の日本において達者な英語力を持った貴重な存在で、IFIP会長の重責だけでなく、JAEMS (Japan-America Institute of Management Science : 日米経営科学研究所) など国際的な組織設立運営に尽力されました。安藤さんは日本の情報処理の世界に国際的な目を開かせる大きなきっかけを与えてくれました。

安藤さんは、情報処理に関する豊富な経験から、情報化が人類全体に与える影響の大きさを予見されていました。半導体チップの技術革新、コンピューターアーキテクチャの変化、デジタル技術に基づくネットワークの発展、ソフトウェア技術の進展などを通じて、この30年間にコンピュータのユーザは専門家ばかりではなく学生や個人まで、子どもから老人まで広がりました。また、情報リテラシーの定着とグローバルな企業活動に伴うクロスカルチャの定着が21世紀にかけての人類の大きな課題として存在しております。

安藤さんは、早い時期から情報リテラシーやクロスカルチャの重要性をIFIPやJAEMSあるいは個人的なネットワークで、さらに闊達な人柄を通じて世界に訴えておられました。その先見性に改めて敬服させられます。安藤さんは将来を見据えた情報処理社会の実現に努力された日本が誇れる国際人でした。今の日本が最も必要とする人材でした。もっと情報処理の仕事を世界のためにやって欲しかったと思います。

ご冥福を祈って筆を擱きます。

(平成10年1月7日)



## 御 略 歴

大正 3年 5月11日	東京都文京区生まれ
昭和11年 6月	米国インディアナ大学経営学部卒業
12年 6月	日本ワットソン統計会計機械（株）（現日本アイ・ビー・エム）入社 特別代表員
21年 1月	連合軍最高指令部顧問
35年 5月	日本IBM（株）常務取締役
38年 5月	アジアIBM（株）特別補佐
41年11月	富士通ファコム（株）社長
42年 5月	富士通電算機専門学校学校長
45年 5月	富士通（株）常務取締役
54年 6月	米国インディアナ大学名誉法学博士（LL. D）
平成 9年11月20日	逝去（83歳）
昭和35年 4月	情報処理学会設立準備委員、評議員
42年 9月	入会（会員番号6702549）
43年 5月～44年 5月	理事
58年 9月	情報処理国際連合（IFIP）会長
61年10月～平成3年 4月	国際委員会委員長
平成 元年 5月	名誉会員
受賞	昭和49年 5月 藍綬褒賞
	62年 5月 情報処理学会功績賞